

高安ゼミが 「大学生観光まちづくりコンテスト」で入賞

9月6日、福井県国際交流会館(福井県福井市)で「大学生観光まちづくりコンテスト 北陸ステージ」が開催され、経済学部高安健一ゼミの「すごそうか北陸チーム」がポスターセッション賞を獲得した。同大会は、大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会が主催し、観光庁、文部科学省、総務省、経済産業省等が後援するもの。同チームは「世界一旅慣れたフランス人を魅了する北陸周遊観光～HOKURIKUを世界ブランドに～」というタイトルで、大幅に増えているフランス人観光客をターゲットに、富山県富山市・石川県奥能登地域・福井県大野市を、水と環境をキーワードに結ぶ交流観光を提案した。



留学生と行くバスツアー開催

9月28日、国際交流センターは毎年恒例の日帰りバスツアーを実施した。本イベントは外国人留学生・外国人学生、日本人学生の交流を目的としており、今回は外国人留学生等39名を含む64名が参加した。

日光東照宮を訪問し、境内を散策するとともに、午後には、大谷資料館



にて、現地ガイドから大谷石採掘の歴史について説明を受けつつ、神秘的な地下空間を見学した。

参加した留学生からは「自身ではなかなか訪れづらい観光地に行くことができ、留学の良い思い出になった」との感想が聞かれ、留学生・日本人学生とともに秋の小旅行を満喫していた。

第31回獨協インターナショナル・フォーラム 社会ネットワーク分析の新潮流

日 程	2019年11月16日(土) 10:00～16:10 11月17日(日) 10:00～11:45
会 場	天野貞祐記念館A-306教室
使用言語	英語(通訳なし)
備 考	入場無料・事前予約不要
問 合 せ	国際交流センター(パンフレット配布中)

2000年代以降急速な発展を遂げてきた社会ネットワーク分析について、最前線で活躍する研究者を海外から招き、その現在における展開を確認するとともに、隣接する分野の研究者を国内から招き、この手法に対する多様な評価を行うことで、日本の現代的課題に対する応用の可能性を明らかにします。コーディネーターは藤山英樹国際環境経済学教授が務めます。

学内における国際化を推進 「GLOBAL FRONTIER」始動

本学国際化推進委員会(委員長・犬井正学長)は、天野貞祐記念館中央部2～4階の国際交流センター・ICZ・日本語教育オフィスが配置されたエリアを「GLOBAL FRONTIER」と名付け、3つの部署の業務連携強化を図るプロジェクトを始動した。これは学内の国際化の機運を高めることを目的としたもの。作成したロゴマークには、ブルーに飛行機の尾翼をあしらひ、国際化と一体感を表現した。Facebook等での情報発信も開始するなど、今後はさらに外国語学習・留学準備・異文化交流の活性化が見込まれる。



Facebook

本学学生が「英語検定試験直前学習会」の 講師を務める

9月28日、東棟で草加市の中学3年生216名を対象とした「英語検定試験直前学習会」が行われた。本学で英語教員免許状の取得を目指す学生らが講師を務め、受験する級に分かれた中学生に、レベルに応じた学習指導を行った。学生からは「予め要点を絞っていたが、思った以上に時間配分が難しかった」「スライドを投影したところ反応が良かった」などの感想が寄せられた。



交流文化学科4年生が 「観光未来世代フォーラム」で提案書部門第2位

交流文化学科の植木歌那子さん、埴原輝美さん、脇沙里亜さん(いずれも交4年)が、8月30日から9日1日に韓国で開催された「日中韓観光未来世代フォーラム」に、日本代表の1チームとして出場し、提案書部門で2位となる優秀賞を受賞した。本大会は、第9回日中韓観光大臣会合に合わせて開催された3カ国の代表チームによる学生提案コンテスト(主催・文化体育観光部※)で、日本からは予選を通過した10チームが出場した。3名は、「日中韓の文化的断食(cultural-fast)を破るモーニング・ツーリズム」と題した提案を行った。また、授賞式後に行われたトークセッションに、日本代表として植木さんが出席し、研究の動機や着想の背景などについて話した。※韓国の国家行政機関(日本の省庁にあたる)の一つ

